

新サイト
「**KONAN-PLANET**」にも
本村さんの関連記事を掲載しています。
ぜひこちらをご覧ください。



古くて新しいデジタルスポーツを開発 サムライの真剣勝負を 多くの人に楽しんでもらいたい

センサーを内蔵した発泡ポリエチレン製の刀を使って戦う、次世代デジタルチャンバラSASSEN（サッセン）。空手道場での訓練を、スリリングなエンタメ系デジタルスポーツにまで高めたのが本村隆馬さんです。2022年10月には東京の秋葉原で念願の全国大会も開催予定。これまでの軌跡と競技の普及に奮闘する今に迫りました。

幼稚園児から高齢者まで 楽しめる生涯スポーツ

ライトセーバーのように光る刀を使った60秒の真剣勝負。5回までのシングをどう使い、一発で決めるか。「だれも見たことはないですが、理想は宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘の再現です。打数を5回に制限したのも、サムライの真剣勝負の面白さを感じてもらいたいです」と本村さんは言います。5は何度もテストを重ねて導き出した数字。ルールの規定をはじめ、SASSENをだれもが楽しめるスポーツへと形にするまで、本村さんと空手家のお父さん、刀開発の仲間という創設メンバーで試行錯誤を重ねました。

元になったのはお父さんの道場で教えていた護身術です。不意の襲撃にどう身を守るか、道具を使った訓練を本村さんも子どもたちに指導をしていました。

チャンバラごっこで盛り上がる子どもたちを見て考えたのは「訓練ではなく、単独のスポーツにした方が面白いんじゃないか」ということ。一方、勝った、負けたでケンカが増える中、「審判の目で判断される武道の試合に苦しい出がある。子どもたちに同じ経験をさせるのか」と疑問がわいてきました。判定のデジタル化ができることを知り、すぐに元道場生の理系の仲間に相談をしました。答えは「作れます」。

そして、圧力を検知するセンサー内蔵の刀とスマートフォンにダウンロードしたアプリが連動し、「どちらが早く当たったか」を機械判定して楽しめるSASSENが誕生。現在は生涯スポーツとして、幼稚園から特別養護老人ホームでも導入されています。

張って追究した経験が今、SNSを活用したPR戦略に生かれています。「自分でプロモーション動画を撮影・編集して、流行らせる。仕掛けに力を入れています」。収益はフランチャイズの加盟金やインスタクター養成の研修費、イベントの売上など着実に伸ばしており、経営者としても大学時代の学びを生かしています。

いつか目標が見つければいい 大学時代の友人が支えに

「学生時代は将来の目標がなかった」と言います。「いい会社に就職して出世をめざす、そんな未来を描いていた。自営業の父の大変さを見てきたので、会社員のほうが絶対にいいと思っていたんです」。

「やりたいことを仕事にするのは楽しい」と語るお父さんの気持ちはわかっていても、自分にはやりたいことがない。卒業後に就職した会社も早々に退職し、目標がないまま帰郷。そして実家の空手道場で空手家として活動する中で見つかったやりたいことがSASSENでした。

学生時代の友人の存在も大きかったと言います。「目標に向かって一直線にがんばっている人が多かったので、よい刺激を受けました。いつか僕も目標が見つければいいなと思っていました」。

道に迷った後輩には、こうアドバイスをするそうです。「いつ目標が見つかるかはわからない。そのときに学んだことが生かされるので、今できることを精一杯やろう」と。学生時代、僕は目標を見つけることができなかった。でも、目の前のできることに懸命に取り組んだことが今につながって、大きな目標を見つけることができました」。

新しいデジタルスポーツを 全国へ展開したい

直近の目標は、SASSENの楽しさを一人でも多くの

CUBE（マネジメント創造学部）での 学び・経験が経営やPR戦略に生きている

生涯スポーツとして周知するため、さまざまな取り組みをしてきました。「世の中になく概念に名前をつけたので、『SASSENとは何ですか』『どこが面白いのですか』という問いにきちんと答えられないといけない。答えのカードを増やすのが大変でした」。

カードを増やす思考の源となったのが大学時代の学びです。マネジメント創造学部1期生として入学し、課題解決力、提案能力を鍛えました。「プレゼンテーションもグループワークも責任を果たすのが苦しくて最初はイヤでした。でも、その経験が役立っています」。

卒業論文は3万字の論文執筆だけでなく、プレゼンテーションも必須。「なんとか食らいついて最終プレゼンテーションをしたら、担当の佐藤先生から良い評価をいただいたのがうれしかったです」。卒論のテーマは広告。SNSを使ったマーケティングにもアンテナを



人に感じてもらうこと。そのために全都道府県に試合ができる支部を設立することを中期的な目標に掲げています。「福岡・大阪・富山には支部をつくりました。今後各支部にインストラクターを10人確保できれば、全国で500人規模になります。各地で教室を開き、次世代の選手を育成することが長期的な目標です」。

刀の精度アップも課題です。「打数は審判が数えるなど、まだアナログ要素が残っています。最終的には審判がいなくても試合ができるよう、デジタルスポーツとして精度を上げていきます」。

SASSENを体験した人口は、2022年7月現在2200人。初心者からフェンシングの日本代表、さらにマイナースポーツのファンも多いとか。「あたらしもの好きな人が楽しんでくれています。僕自身が開設直後のマネジメント創造学部に入學したほどの、あたらしもの好きなので、うれしいですね」。人気の広がり期待が高まります。



PROFILE

一般社団法人 全日本サッセン協会
もとむら りゅうま
会長 本村 隆馬さん

INFORMATION

センサー付きSASSEN刀については「購入・レンタル・リース」対応が可能。全国各地出張体験イベントも開催しております。住宅展示場、商業施設、学校など幅広い分野でのスポーツコンテンツとして提供できます。近年では、鬼滅の刃やスターウォーズの流行に乗り、コスプレをして参加する方も多い。体験会のご依頼は順次受付中です。

各種SNSは
こちら



2013年、マネジメント創造学部卒業。大阪の会社に2年間勤務後、故郷の福岡県に戻る。医療事務の仕事の続けながら空手家として活動する中、刀を使った護身術をスポーツとして確立させようと思ふ。「飒爽と風を切るさま」の颯然（さつぜん）からSASSENと命名して特許をとり、2016年一般社団法人 全日本サッセン協会を設立した。